

脳と同じ場所が傷ついても、原因が違えば症状も違う。軽い病気と違っていたら、大変な病気の始まりということもある。

75歳のK子さん。「センス。私のも、閃輝暗点?」とは、お気楽な。いや、そう思いたいのか。昨日から、右視野が見にくいという発作が、2度も生きたというのだ。

発作の時間は比較的短く、15〜20分ほどらしい。テレビを見ていたら、右端の人の顔が半分ぼんやりしてきた。片目を隠して確かめたが、両目とも同じ右半分が見えにくかったという。が、そりゃあタイマンだ。で、「ギザギザした光のやうなものが動いて見えるようなことはなかったか?」「とじつとく聞くんが、ノーである。ならば、その症状は閃輝暗点でなへ、半盲だろう。

診察時には、もう視野の異常は残っていない。頭のMRI（磁気共鳴画像）でも異常はない。だが、MRA（血管画像）で調べると、左の後頭葉（も）を視る中枢への血流が悪くなっている。診断は、左後頭葉への一過性脳虚血による右同名半盲ということになる。

後頭葉が関係する視野異常には、暗点と半盲がある。暗点というのは、視野の中に見えない部分があるものをいう。閃輝暗点は、視野の一部にギザギザした光の波が広がって暗くなる。原因は、神経の活動異常が広がるからとされている。血流の低下もみられるようだが、脳梗塞の危険性は低い。

一方、半盲は、両目の視野の半分が見えにくくなるものだ。Kさんのような後頭葉への一過性脳虚血発作は、治療が遅れれば、脳梗塞になり半盲の症状が残るかもしれない。

などと、暗点と半盲の違いを頭に叩き込んでも、いざとなればパニックか。でも、視野の異常「じつと両目ともおかしらうなら脳の病気が原因かも」ということは忘れないでほしい。

（石黒修三＝いしへろクリニック・脳神経

外科医…7/4北國新聞掲載）